学校番号	1201

令和８年度　数学科
数学科

教科	数学	科目	数学Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	改訂版　最新　数学Ａ　（数研出版）						
副教材等	３ROUND　数学Ａ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- 授業では、「授業の内容を理解する→問題を解く→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える（特に間違った箇所）」といった一連の過程で、数学の内容を理解していってください。
- 問題集の問題をまず自分で解いてみましょう。ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。また、各自答え合わせをしてください。答え合わせは、自分がどこでつまずいたかを知るための大切なものです。
- 授業以外における課題は、定期的に提出してもらいます。答えを写すのではなく最後まであきらめずに自分で解けるように取り組みましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
図形の性質，場合の数と確率について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
【思考力、判断力、表現力等】
数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにする。
【学びに向かう力、人間性等】
数学のよさを認識し数学を活用しようとする力を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形の性質，場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し，図形の性質を見いだし，論理的に考察する力，不確実な事象に着目し，確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力，数学と人間の活動との関わりに着目し，事象に数学の構造を見いだし，数理的に考察できる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	場合の数	・集合 ・集合の要素の個数 ・和の法則と積の法則 ・順列 ・組合せ	a：樹形図を用いたり順序だてて並べたりすることで，場合の数をもれなく重複なく数えることができる。 b：和の法則を，表を利用することで，また積の法則を，樹形図の特別な場合として考察することで見いだすことができる。 c：場合の数を求めるのに，効率的に考えることができる法則（和の法則・積の法則）があることに興味をもち，使いこなそうとしている。	定期考査 課題提出	定期考査 課題提出	課題提出 発表 取り組み
	確率	・事象と確率 ・確率の計算 ・独立な試行と確率 ・条件付き確率 ・期待値	a：条件つき確率の定義を理解し，確率を求めることができる。 b：排反事象や余事象の確率などを利用して，複雑な事象の確率を考察することができる。 c：これまでに学んだ確率の性質を利用して，いろいろな場合の確率を意欲的に求めようとする。	定期考査 課題提出	定期考査 課題提出	課題提出 発表 取り組み

2学期	平面図形	・図形の基本 ・角の二等分線と線分の比 ・三角形の外心、内心、重心 ・円周角の定理 ・円に内接する四角形 ・円の接線 ・方べきの定理 ・2つの円 ・作図	a: 三角形の外心, 内心, 重心の定義とその性質を理解し, それらを用いて角の大きさや線分の長さを求めることができる。 b: 角の二等分線と線分の比の定理を証明するのに, 既習事項を用いて, 論理的に考察することができる。 c:図形の基本的な性質について既に学んだ事項を思い出し, それらを活用できる場面を見いだそうとしている。	定期考査 課題提出	定期考査 課題提出	課題提出 発表 取り組み
	空間図形	・空間の直線、平面 ・正多面体 ・立体の切断	a: 2 直線のなす角, 直線と平面の垂直条件, 2 平面の位置関係について理解し, 角の大きさやそれらの関係性を求めることができる。 b: 多面体の頂点, 辺, 面の数に関して成り立つ性質を具体的な例によって確認し, 説明することができる。 c: 正多面体が 5 種類しかないことに興味をもち, その理由を考えようとしている。	定期考査 課題提出	定期考査 課題提出	課題提出 発表 取り組み
3学期	数学と人間の活動	・約数と倍数 ・ユークリッドの互除法 ・2進法 ・点の位置の表し方 ・数学とゲーム・パズル	a: 素因数分解を利用することで最大公約数と最小公倍数を求めることができる。 b: ユークリッドの互除法の仕組みについて, 長方形を正方形に分割する図を通して直感的に理解し, 考察することができる。 c: 数の表し方には 10 進法以外にもいろいろな方法があることに興味をもち, 2 進法の他にも方法がないか調べようとする。	定期考査 課題提出	定期考査 課題提出	課題提出 発表 取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度